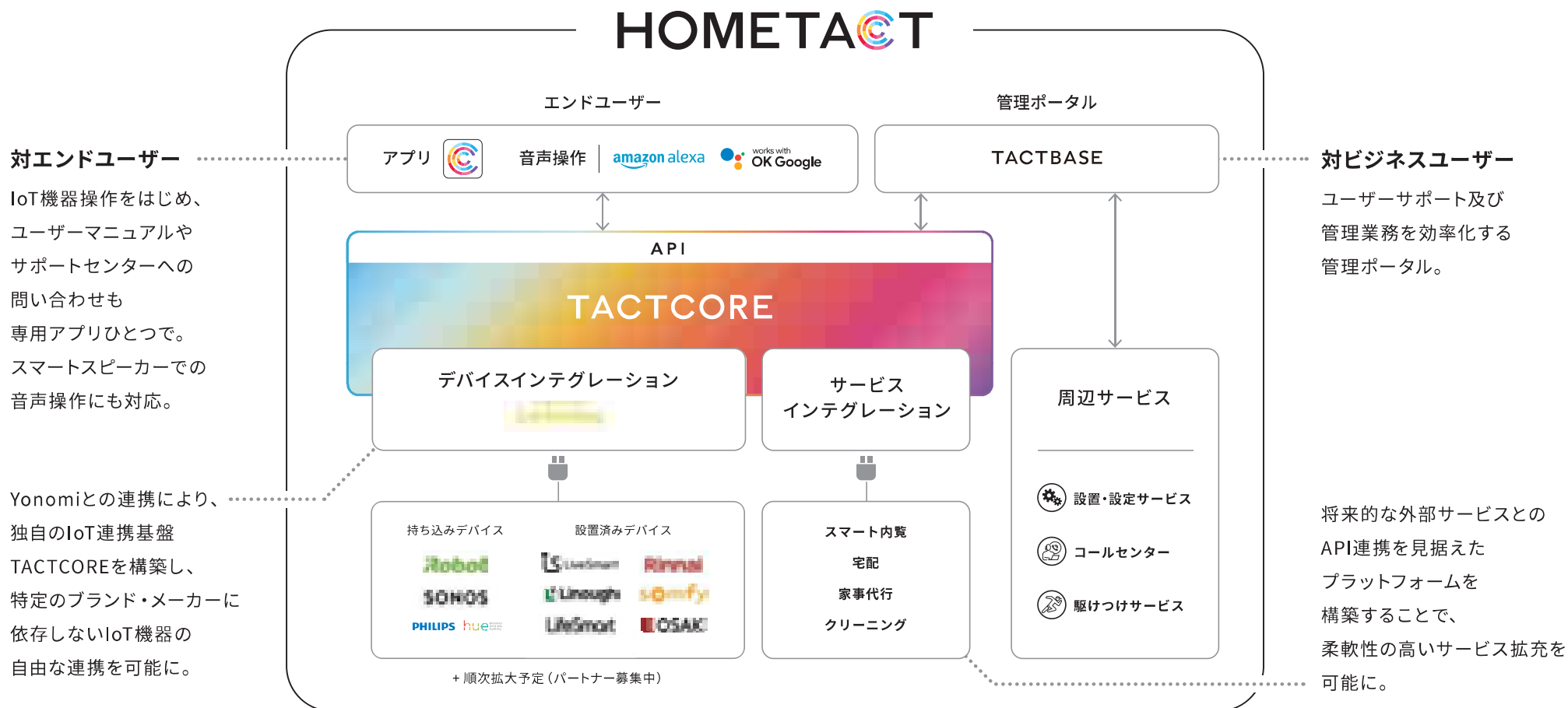


HOMETACTサービス全体図

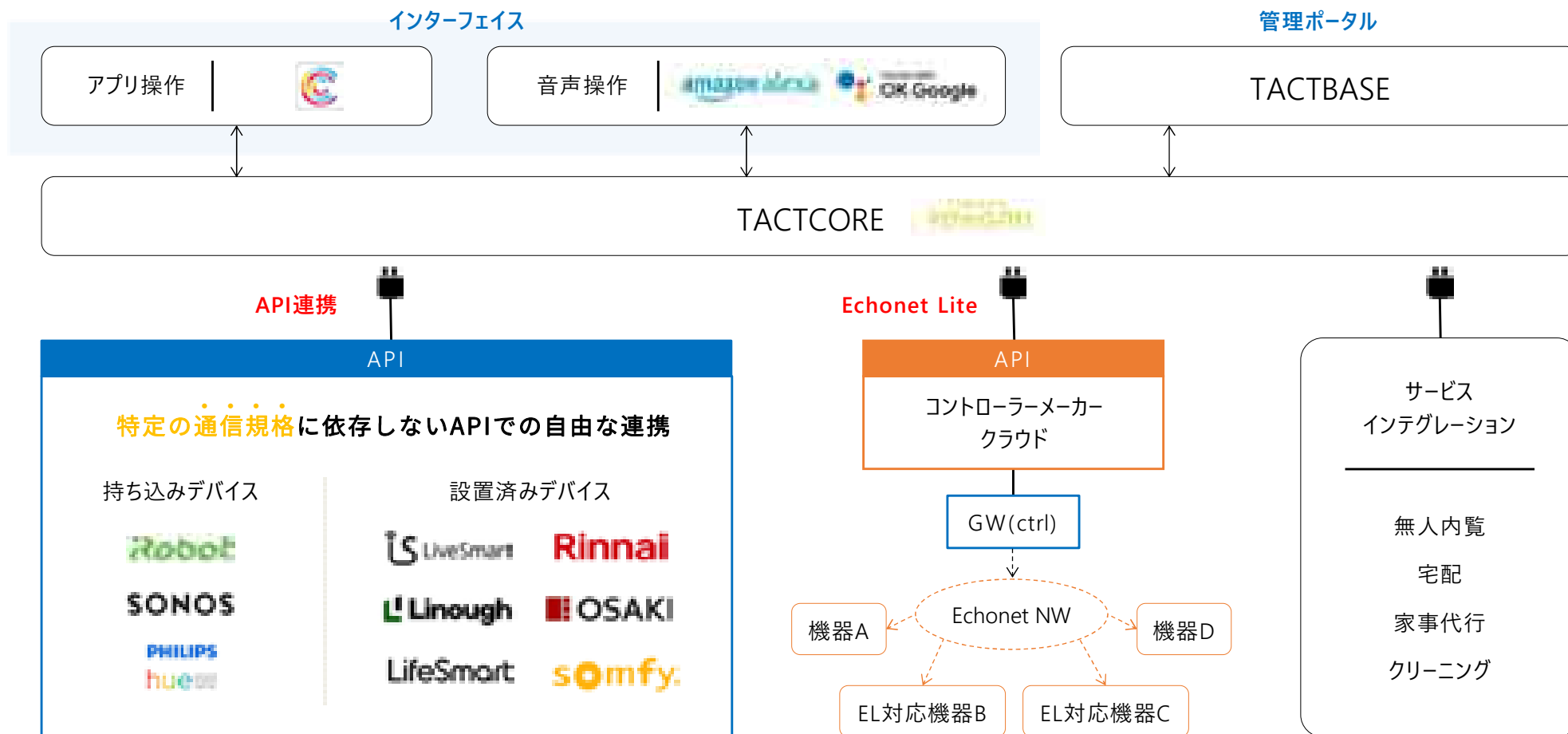
スマートホームを日本のスタンダードに

HOMETACTは総合デベロッパーである当社のノウハウを活かしながら、日本の住環境に導入しやすい総合スマートホームサービスとして開発しました。今後はさらなるサービス拡充により、暮らし全般を支えるスマートインフラの構築を目指していきます。



HOMETACTが目指すオープンなIoTプラットフォーム

APIによる連携機器群とEchonet Lite連携機器群を組み合わせた**ハイブリッド型**のプラットフォームとすることで、機器連携のスピードアップと柔軟性が高まる



HOMETACTの今後の注力テーマ

メーカーや通信規格に依存しないホームオートメーションを土台にしたサービス拡張

自由度の高いプラットフォーム（ハイブリッド型）、強固な顧客接点・高いMAU率などHOMETACTの強みを活かし
以下、3領域を注力テーマとしている



参考) Echonet Liteのみを前提としたサービスの課題

家ナカ機器連携やエネルギー使用状況の把握において非常に有効な手段である一方、サービス採用側（デベロッパー他）から見た課題感は以下の通り



1

マルチベンダー対応の有効な手段だが、住空間の機器を網羅的に接続できていない

2

コントローラーが制御可能な相互確認機種リストに各社バラツキがみられる

3

データの利活用や顧客体験の改善等施策がメーカーごとの戦略に依拠してしまう

← サービス採用側の意向が反映されにくい →



三菱地所の総合スマートホームサービス

HOMETACT

Special Information

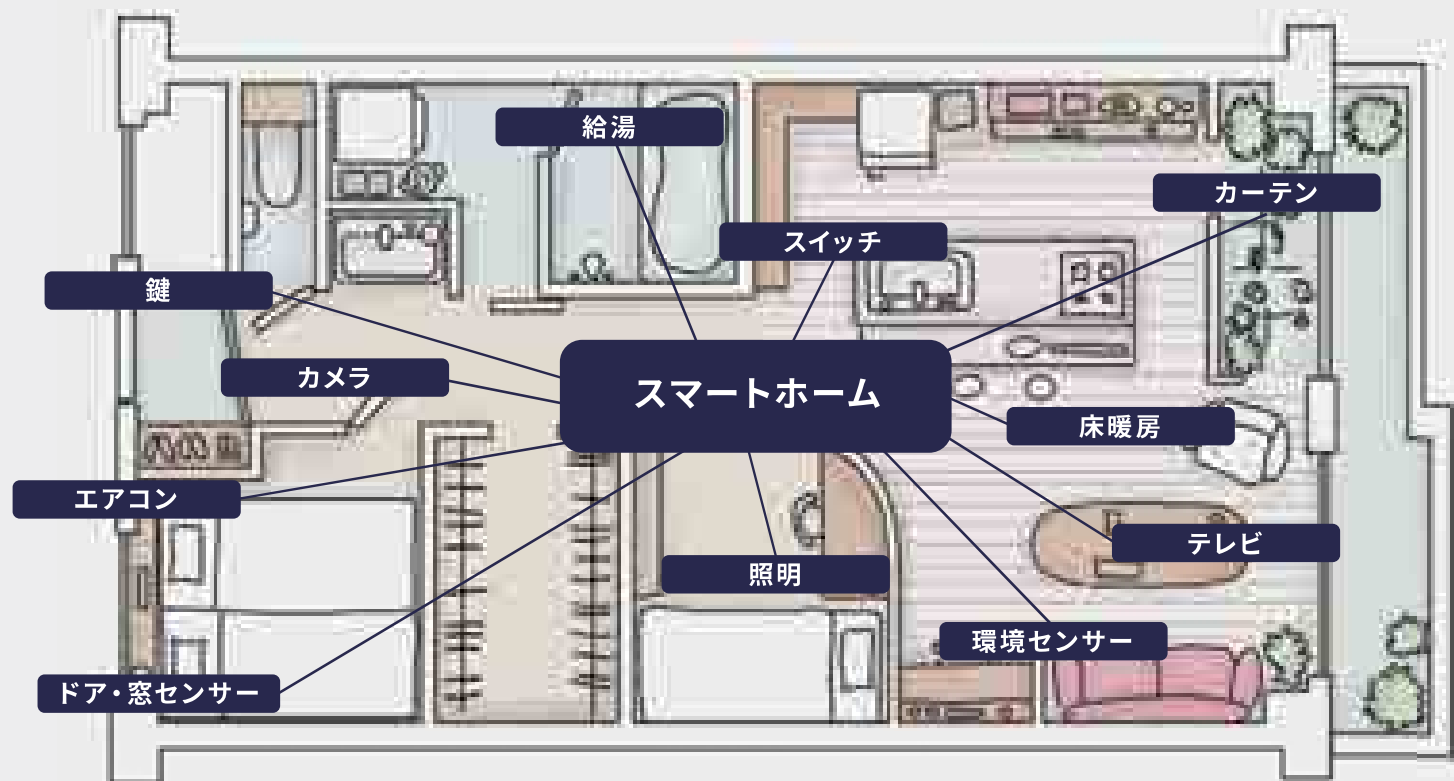
スマートホームとは

テクノロジーのちからで、暮らしを便利に

スマートホームとは、住宅設備・生活家電などのIoT機器^(※1)を、スマホアプリやスマートスピーカーなどと結びつけた住宅のことです。

ドアの施錠や照明・空調のON・OFFを遠隔操作で行えることはもちろん、

カメラやセンサーを介した見守りなど、多様なライフスタイルやニーズにあわせ、便利で快適な暮らしを実現する新しい住まいのカタチです。



※1: Internet of Thingsの略で、電化製品などの身のまわりのモノがインターネットにつながることを指す。

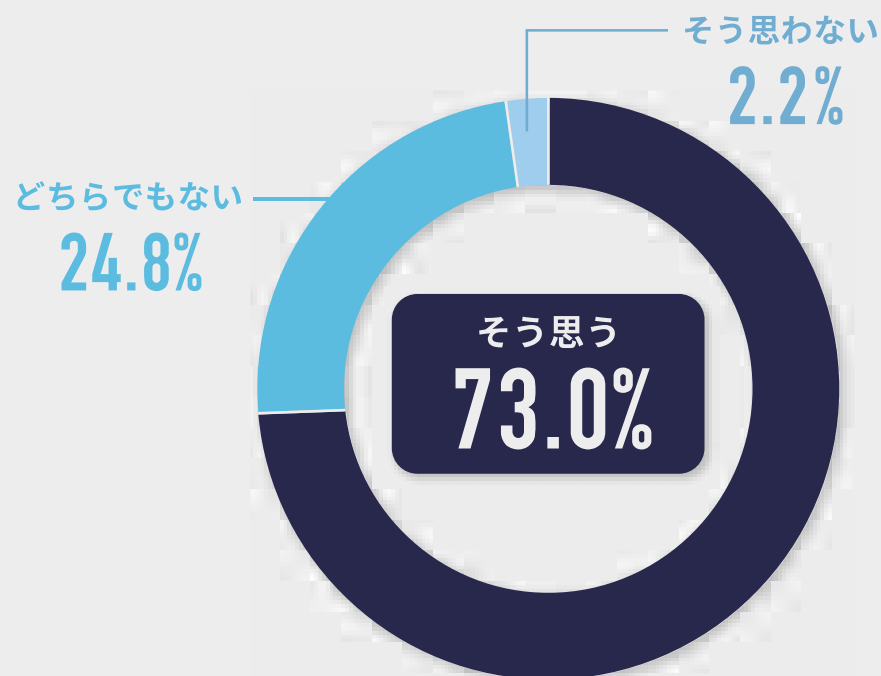
スマートホームへの評価

ユーザーはスマートホーム導入による暮らしの変化を実感。物件選択時の重要なポイントに。

ユーザー調査の結果では、スマートホームの導入によって「利便性の向上」や「生活の効率化」などの、暮らしの変化を多くの方が感じています。

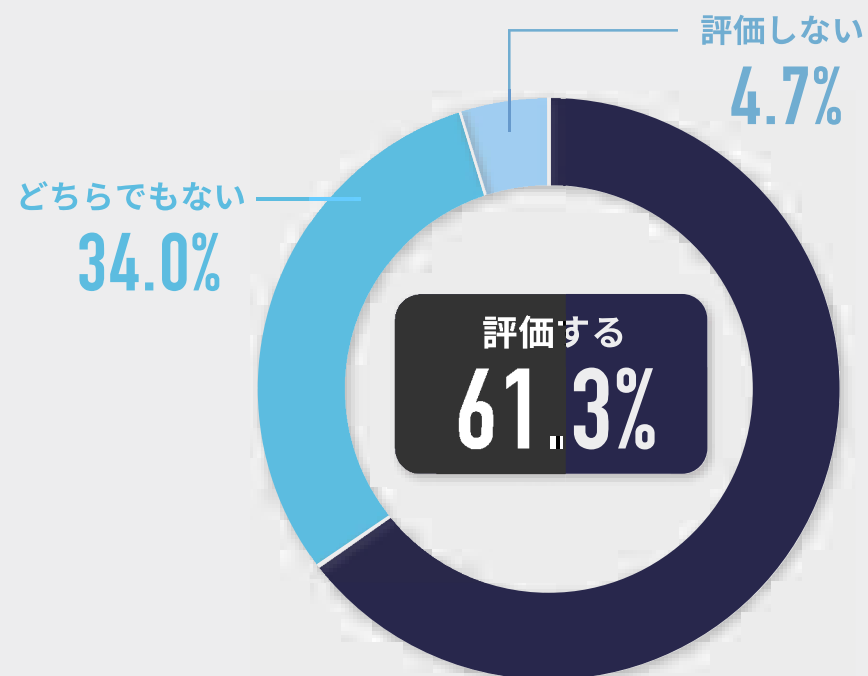
また、分譲・賃貸を問わず「物件選択時の加点となる」との評価も、普及途上の中で6割を超えている状況です。まさに近い将来、

スマートホームはNice to have(あったらいいな)のサービスではなく、住空間に必要不可欠なサービスとして導入が進む次世代の生活インフラとなります。



暮らしはよくなったと感じるか

(n=278)



物件選択時のポイントとして評価するか

(n=2,988)

国内市場の導入障壁を解決するサービス開発

メーカー・サービスごとに個々にIoT化が進むことによる特有の課題も

認知率も約9割まで高まりつつあるなか、スマートホームが国内であまり普及していない原因はどこにあるのでしょうか？市場を見渡すと、カギや照明など個々にIoT・サービス化が進み、横連携のない縦割りサービスとして提供されることで、スマートホーム全体としてのUXが置き去りになるなど複数の課題が見えてきました。



導入障壁

1

利用するアプリがばらばら
まとめて操作できない
(複数アプリが前提)

+

2

ユーザー自身では
設置・設定が難しい
(導入ハードルが高い)

+

3

コールセンターや緊急対応などの
ユーザー対応サービスが
充実していない



ユーザーが使いにくい上に、安心して提供できないサービスはビジネス側も採用しにくい